



平成28年度 城山地区地域活性化事業交付金 交付決定事業実績

平成29年3月31日現在

事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
		事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
1 城北ヒガンバナ育成事業	城北ヒガンバナを育てる会	秋の開花時は見事な花をつけるヒガンバナを田畑の土手周辺に植えることにより、散歩やハイキング等で訪れる方の目を和ませ、憩いの場所として親しんでいただくとともに、「花と緑のまち城北」を更にアピールしていくことを目的とする。 また、ヒガンバナは有毒性であることから、これを植え付けることによりネズミ、モグラ、ミミズ等がいなくなり、それらを餌にしているイノシシの減少も期待することができる。	実施日 平成28年8月6日(土) 植え付け場所 城北穴川地域の田畑の畔 参加者 自治会員を主体に子ども育成会の児童とその父母、法政大学、東京家政学院大学、明星大学の学生など約60名 植え付け数 4,200個(赤4,000個・白200個)	ヒガンバナの開花時は、訪れるハイカーや散歩の人の目を和ませることができ、「緑と花のまち城北」をPRできると思う。 有毒性のヒガンバナを田畑の周辺に植えつけたことにより、ネズミやモグラ、ミミズなどのイノシシの餌が減り、イノシシが田畑を荒らすことが少なくなった。	植え付けを行った場所は、県道から西に向けて雑壇になっているので、田畑を遠くまで見渡すことができる。ヒガンバナの開花時には素晴らしい景観になると思われ、多くの方々に憩いの場所として親しんでいただけることを期待している。	H28.4.21	670,000
2 葉山島地域活性化事業	湘南みらい実行委員会	次世代の担い手の人材育成や地域内で活動している自治会、育成会、老人会がより一層連携を深めることが重要であることから、「地域活性化」をキーワードとして地域住民が一体となり、「秋の収穫祭」を開催することにより、当地域に多くの観光客を呼び込むとともに地域全体の目的である葉山島地域の地域振興と活性化を図る。	開催日:10月2日(日) 内容:地元農家による地場農産物の販売、落花生の収穫体験、落花生を使用した親子料理教室 来場者数:約800名 広報:チラシ配布、タウンニュース掲載(緑区・中央区)	今年のイベントは、地元農産物生産者が多くの地場農産物を販売することに加え、新規の取り組みとして落花生を使用した親子料理教室を開催した。こうした工夫を凝らしたイベントを開催したことで、さまざまな年代の方に地域を訪れていただくことができ、さらなる地域の活性化に繋がった。 また、イベントを通し地域内で活動している自治会・育成会・老人会が積極的に参加し、葉山島地域一体の連携をより一層深めることができた。	秋の収穫祭は、年を重ねる毎に認知度が高まり、葉山島秋の風物詩として定着するとともに地域の活性化が図られたことは大きな成果であったと評価している。今後も各種団体との連携により、地域全体に相乗効果が芽生えるような事業として継続していきたい。 また、城山観光協会や城山商工会とも引き続き協力関係を継続し、共に協力し合いながら地域一帯の活性化を図るとともに、開通した圏央道も視野に入れた活動を行っていきたい。	H28.4.21	72,000
3 地域の文化振興と青少年の健全育成事業	特定非営利活動法人城山スポーツ&カルチャークラブめいぶる	未来ある子どもたちの健全育成、親子のふれあいの深耕、地域住民間の交流促進を図る事業を通じて、地域コミュニティの再生を進めることを目的とする。 具体的には、相模原市の象徴ともいえる”宇宙”をテーマにした交流事業を地域のランドマークである「もみじホール城山」で行う。	「宇宙の学校」(親子向け) 5月22日～12月25日(4回) テーマ「空気の流れと振動」 講演、実験、工作、家庭学習発表 参加親子18組 「しろやま宇宙講座」(大人向け) 2月11日 講演「宇宙トピックス」、工作「ゲルマニウムラジオを作ろう」 参加者15名	身近な素材を使った「実験や工作」を通して、参加者ひとりひとりの心に「好奇心・冒険心・匠のこころを育む」という視点での親子参加型教室を行ったことで、親子の会話をベースとしながら、未来に生きる子どもたちはもとより、大人たちにも健全な気づきの機会を提供することができた。 また、今年度企画した大人向け「しろやま宇宙講座」では、参加者から身近に宇宙を感じることができたといった声が多かった。	未来に生きる子どもたちに健全な気づきの機会を提供するということは、現代社会において非常に貢献度が高いと評価している。今や、生涯学習と地域の教育力が求められており、今後とも継続すべき事業であると考えている。 また参加者からの評価でも、継続を求める声を多くいただいた。 今後は生涯学習のひとつのプログラムとすることを検討していく。	H28.4.21	250,000
4 しろやま得の市～久保沢の市～	しろやま得の市実行委員会	城山地区で唯一、商店が集積している城山総合事務所前の人通りが少なくなっており、一昔のにぎわいが失われ地域に活力が無いように感じられることから、「しろやま得の市～久保沢の市～」を開催し、城山総合事務所前道路沿いのにぎわいを創出することを目的とする。	第1回 日時:9月25日(日)10:00～13:30 場所:城山総合事務所前道路 出店店舗数:34店舗 来場者数:約3,000人  第2回 雨天のため中止	来場者増加を目的とした企画として、久保澤囃子保存会による子ども囃子やキッズダンスのパフォーマンスに加え、今年度は新たに福引抽選会等も実施した。また、各店舗のPRについては、本部テントでのチラシ掲示や店主によるチラシ配布を行った。 イベント終了後に実施した、各店へのアンケート調査では、沿道の各店舗では商品・サービスのPRや販売ができていたとの結果がでている。	当イベントが商業者及び地域住民を巻き込んだイベントとなったことは大きな成果であったと評価している。 当イベントの知名度は城山地域内では徐々に浸透してきたが、子育て世代(30歳～40歳)への認知度が低く、広く周知し続けることが必要であること、出店店舗の店舗名表記の掲示についても実現できていないことが次回以降の課題と感じている。	H28.4.21	504,000

	事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
			事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
5	地域の防災・防犯に関する事業	自治会法人小松自治会	地域住民の防犯意識を高め、犯罪「ゼロ」を目指し、こころ豊かで明るい住みよいまちづくりの一翼を担うことを目的とする。	夜間パトロールの実施 月1回の夜間パトロールでは、パトロールの範囲を小松・町屋・城北地域の他、若葉台地域の一部にまで拡大して活動を進めた。 のぼりやポスターによる啓発活動の実施 町屋自治会・城北自治会の協力を得ながら、広田小学校周辺に3自治会連名ののぼりを掲げ、啓発活動を行った。	地域の子供たちに依頼してポスターを作製してもらうなど、地域の協力を得ながら活動を進めることができた。 3年間の活動を通じて、自治会の枠を超えた様々な人々との交流があり、地域での仲間意識を醸成することができた。	活動を通じて、自治会の枠を超えた地域での仲間意識を醸成することができたことは大きな成果であったと評価している。他方で、こうした活動を進める上で、地域の理解と活動への協力が最も大切であり、難しいことであることも改めて実感している。 今後も、互いに隣接する小松・町屋・城北・若葉台地域の住民同士の情報共有をより一層進め、安心・安全で住みよい地域づくりに取り組んでいきたい。	H28.4.21	170,000
6	しろやま魅力発信事業	SHIROYAMA発信会議	城山地区の既存の魅力を発信するとともに、埋もれている新たな魅力を再発見し発信することで、地域の活性化を図ることを目的とする。	さがみ風っ子トレイルランニング大会に合せて「大好き！しろやまフェスティバル」を実施し、トレイルランニングに参加した市内外の約2,000人の方々に対して城山地区の魅力を発信した。 実施日:5月29日(日) 会場:城山湖コミュニティ広場 実施内容 しろやまマルシェ~さがみ魅力発信市~(参加ブース15) 里山ネイチャーウォーク(環境学習ガイドウォーク:参加者数約30名)	城山地区に存在する既存の魅力(お店、特産品など)を発信するとともに、埋もれていた新たな魅力(自然や環境)を再発見し発信することで、多くの市民に城山地区の魅力を知らせてもらうことができ、城山地区の活性化を図ることができた。	多くの方々に城山地区の魅力を発信することができたことは大きな成果であったと評価している。 しかし、城山地区内の各種団体からの協力を得られたかという点は課題であり、今後は地区内の各種団体と十分な連携を図りながら事業を実施する必要があると感じている。	H28.5.25	150,000
7	城山夏まつり	城山夏まつり実行委員会	今年度から城山地区の各種イベントとの連携を図りながら、城山地区の伝統文化の継承と観光振興による地域活性化を図る。 新住民が地域イベントに参加できる環境づくりを行うことにより、地域への愛着を深め、地域住民の融和を図るとともにとともに地域活動に取り組みきっかけづくりを行う。 地域の新たな担い手の育成や地域住民のコミュニティ形成、自治会加入促進、地区内の各種団体間の連携強化にも結び付ける。	開催日:8月27日(土)・28日(日) 内容:御輿渡御、山車の運行、祭囃子の競演、花火大会、三味線演奏会など 周知:チラシ配布(城山・二本松・相原) 来場者数 8月27日(土)13,000人 8月28日(日)22,300人	今年度から、夏まつりのチラシに城山地区の各種イベントを掲載するなど、地域団体との連携を強化した。 また、チラシの配布エリアの拡大を行ったことによりたくさんの方々が来場者であったが、新たな駐車場の確保や警備員を適所に配置することなどにより、円滑な夏まつりを開催することができた。 夏まつりの企画・運営を通じて、新住民が地域活動に参加するきっかけができ、新たな地域活動の担い手育成にも寄与することができた。	チラシの配布エリアの拡大や、チラシに地域内の各種イベント情報を掲載することで、多くのメディア(タウンニュース、神奈川新聞、情報誌など)にとりあげられ、城山夏まつりを市内外に広く周知できたことは大きな成果であったと評価している。 また、夏まつりの企画・運営を通じて、自治会への加入促進など、地域コミュニティ形成へのきっかけづくりができたことも一つの成果であったと評価している。	H28.5.25	400,000
8	災害弱者支援「緊急連絡カード」普及促進事業	自治会法人若葉台自治会	若葉台地域は高齢化率が53%と高いことから、いわゆる「災害弱者」に対して「緊急連絡カード」を配布し、急病等の緊急時にスムーズな対応が取れる「共助」のまちづくりを目的とする。	相模原市との「災害時要援護者避難支援事業に関する協定書」に基づき市から提供された同意者名簿及び自治会の呼びかけに応じた方の合計143名に緊急連絡カードを配布した。 緊急連絡カードは筒の中に入れてられるようにし、筒の外にも自治会長・班長の名前・電話番号を記したシールを貼り、緊急時にスムーズな対応ができるような工夫も行った。	緊急連絡カード普及事業は61名の班長の同意を得てスタートし、合計143名に緊急連絡カードを配布したことにより、住民の安心感を高めることができた。	住民同士の見守りや支え合いという「共助」のまちづくりをすすめ、住民の安心感を高められたことは大きな成果であったと評価している。 今後は配布対象者を拡大する等、事業の拡充を図っていきたい。	H28.7.22	50,000

	事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
			事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
9	地域の保健・健康づくりの増進に関する事業	地域住民の健康増進を図る会	地域住民の健全な健康増進を図り、地域の活性化を図ることを目的とする。	2月22日 芝に関する研修を受講 2月24日～2月27日 小石、枯葉、ゴミの片づけ、散水用配管、ローラー転圧 3月18日 種蒔き実施 農業改良普及指導員によると、例年より気温が低く発芽が遅いとの見解であった。 発起人である10名以外にも、徐々に手伝いを希望する申し出があった。	初めての芝生の種子蒔きなど、自然相手の作業をメンバーが協力しながら行った。事業の成果はこれからだが、芝が順調に発育すれば、早く7月から8月ごろにスポーツなどのレクリエーションができると考えている。 また、発起人である10名以外にも徐々に手伝いを希望する方からの申し出もあるなど、地域からの事業に対する期待も感じている。	メンバーはもとより、作業に関わる皆さんが「地域住民の健全な健康増進を図り、地域の活性化を図る」という目的をよく理解され、楽しく作業が進められており、自分たちの広場を自分たちの手で作るという機運が高まっていることは大きな成果であったと評価している。 今後は、芝の管理が大切な作業になるが、地域の皆さんの健康増進に役立てる広場を提供していきたい。	H29.2.2	500,000
							2,766,000	